

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

- 理事長から1
- 理事会／委員会報告2
- 第17回東京国際ブックフェア3
- 楽譜のオハナシ4-5
- サマーパーティー 20106

理事長から

JAIP の活動(2010年1月～5月)について

外国雑誌取扱業者にとって、2010年度商戦の最盛期である2009年の秋口は、円高が進行しその前年に比べ売上高は減少しましたが、円高の影響で継続率が比較的高かったと感じています。一方、入札による競争激化は各社の利益率の低下を招き苦難のシーズンでありました。年間を通じ医学・理工系の分野では媒体がペーパーから電子媒体へ一段と変化しました。ELTを含んだ洋書に関しては、年度末の商戦は早くも昨年暮れから始まり、各社とも多忙を極め、一定の成果を収めたようです。また、洋書洋雑誌共に年度末は電子コンテンツ・アーカイブ版の入札が相次ぎ、業者間の競争が一層熾烈を極めました。

協会の活動として、1月8日に有楽町のプレスクラブにおいて賀詞交歓会を開催し、50社凡そ130人の方々に出席して頂きました。JAIP役員OBをはじめ、関西地区から緑書房の丹羽社長、藤井洋書の藤井社長にも遠路から出席して頂くことができました。また、今回は丸善の小城社長も出席され、多くの方々が丸善の新しい船出とその息吹を感じられたことと思います。2011年の同会も非会員の方々からの参加を募り、更に充実した会に発展するよう企画して行きたいと思っております。

5月にはJBIAダイレクトリー2010を刊行致しまし

た。今回も多くの方から広告を頂きましたことをこの紙面をお借りしまして感謝申し上げます。

5月21日には六本木の国際文化会館におきまして、定時総会とパネルディスカッションを開催いたしました。パネルディスカッションは、「洋書業界に何がもとめられているか」と題し、私山川がコーディネーター役を務め、パネラーとして慶応義塾大学理工メディアセンター事務長 市古みどり氏、シュブリンガー・ジャパン代表取締役 深田良治氏、丸善株式会社代表取締役社長 小城武彦氏の3者をお迎えし、夫々の立場で発表をして頂きました

(詳細は <http://www.jaip.jp/jp/info/bulletin/20100521panel.html>)。

定時総会では、2009年の活動報告と会計報告、2010年度の活動報告案と予算案をご承認頂きました。

2010年度は民主党新政権のもとで組まれた予算が初めて執行されます。国の学術研究・教育予算の進捗効果は未だに見えてきませんが、何れにせよ全メンバーが厳しい市場環境に直面することが予想されます。会員銘々の相違と工夫をもってこの難局を乗り越え、更なる発展に備えることができますよう心よりお祈り申し上げます。

公 告

会社代表者変更 (敬称略)

6月30日付

オックスフォード大学出版局 株式会社

新代表者：代表取締役社長 中村 清和

旧代表者：ポール・ライリー

なお、ポール・ライリー氏はOUPの
ELT Development Director, Asiaに
就任いたしました。



社名変更

9月1日付

新社名：株式会社 OCS

旧社名：海外新聞普及株式会社

なお、英文社名、住所は変更ございません

新社名：株式会社ピアソン桐原 (Pearson Kirihara K.K.)

旧社名：株式会社ピアソン・エデュケーション

代表者、住所の変更はございません

理事会報告 2010年7月5日(月)

1. 会計報告

四半期終了までの予算の状況を事務局が報告。予算と大きな乖離はなく了承された。

2. 創立70周年記念事業への取り組み

今回は創立50周年記念を1991年9月11日に如水会館で行った。実行委員長に佐々木大刀夫(第一)、副委員長に渡辺正憲(洋販)。3～5時 式典及び記念講演 5時から 記念祝賀会。

総予算350万円(内270万円を特別会計から支出)上記を踏まえ、総務委員会で討議することとした。ただし過去にとらわれず、若い人のために有意義な形にしたい。また記念事業の一環として協会のロゴ入りのTシャツを作り、希望者に配布する。

3. 秋のセミナー

- ・国会図書館見学会(2回目)
- ・製本作業の見学：松岳社^{しょうがくしゃ}
- ・国際ペンクラブ総会+早大図書館見学

上記の中から希望を聞き、決定する。

5. 関西パーティー

9月17日(金)大阪第一ホテル(仮予約)で行う。昨年同様懇親会の前にセミナーを計画する。

6. 理事長から

中断していたSIGを再開したい。テーマ等はこれから検討する。

委員会報告 <レクリエーション委員会>

第59回 麻雀大会

2010年6月29日(火) シルク(高田馬場)にて
参加者 12名 参加社数 9社

上位の成績は下記の通りです。

順位	氏名(社名)	1回戦	2回戦	3回戦	合計
優勝	雨宮(東京ブックランド)	45	-1	25	69
準優勝	村山(ゲーテ書房)	-7	48	-3	38
3位	鶴(竜)(東亜ブック)	-16	-4	40	20
4位	高橋(アユソフト)	2	33	-20	15
5位	唐澤(ゲーテ書房)	26	-12	-2	12
6位	鶴(三)(東亜ブック)	-25	-12	39	2
7位	マーク・グレッシャム(UPS)	-13	20	-11	-4

☆役満 該当者なし



次回(第60回)の開催は2011年2月の予定です。
皆様のご参加お待ちしております。

第 17 回東京国際ブックフェア

第 17 回東京国際ブックフェアは、7 月 7 日（木）～10 日（日）の 4 日間、昨年同様に東京ビッグサイト西館で開催されました。会期中 3 日間は、同じ会場で催された第 1 回教育 IT ソリューション EXPO と重なり、東京国際ブックフェアへの来場者数が昨年を 10,000 人程度上回った約 76,000 人であったのに加え、教育 IT ソリューション EXPO への来場者数も加えると合計で約 87,000 人の方が来場されたこととなります。又、参加国・出展社数も昨年の 29 カ国 776 社をそれぞれ 1 カ国 224 社上回る、30 カ国から 1,000 社の出展でいずれも過去最高との発表が主催者よりありました。

今年特徴的だったのは、出展社数が昨年の 1.5 倍、90 社にも上った“デジタルパブリッシングフェア”で、iPad 等の端末を利用した電子書籍が話題を集める中、フェア会場には Google を中心に来場者が集中し、各ブースを熱心に見学しており、昨年よりもさらに出版のデジタル化・電子化が進行し、それに対する世間の関心は一層増していると痛感いたしました。さて協会主催の洋書バーゲンコーナーですが、この様に参加出展社が急激に増えた事により、会場入口のアトリウム部分にもブースを設置し対応したようですが、昨年よりさらにワゴン数の割り当てが 25 % 減少

して、ついに 40 台を切り、バーゲンコーナーの位置も会場の端に追いやられ、長細く、且つ不便なレイアウトに変更を余議なくされました。その為、同じカテゴリーを扱う会社が集中する様に割り振りしせねばならず、各社のロケーションには苦勞しました。結果、売場の混雑具合が不均等になった感是否めません。それ以前に、ワゴン台数減少とバーゲンコーナーの会場内での場所を告知する案内表示が小さかったことが影響し、売上額は昨年の 76%にとどまる結果となりました。一昨年より続く円高の影響により、更にバーゲン価格を下げたおかげで冊数ベースにおいてはマイナスの 21%に留まる事が出来たと思います。来年は会場を東京ビッグサイト西館から東館に移動し、さらに規模が大きくなると聞いていますが、TIBF の規模が大きくなっても洋書バーゲンコーナーが従来のスペース/台数を取り戻さない限り、我々にはメリットはありません。来年は何とか一昨年規模の 60 台程度には回復したいと思います。

会期中、バーゲンセールにお手伝いを頂きました関係者の方々には、空調も効かない環境の中で四日間、汗だくになりながら、本当にご苦勞様でした。

(JPT A.O.記)



開会式での山川理事長
(前列左から 3 番目、右は秋篠宮ご夫妻)



狭くなったバーゲン会場

天正遣欧使節の出発

アカデミア・ミュージック(株) 平岩 寧

正使・副使は 12 ～ 15 歳の少年

ヴァリニャーノは豊後を経て有馬に戻った後、日本人をヨーロッパに派遣する計画を進めました、先ず人選ですが、当然のこと親交の深かったキリシタン大名の関係を中心にして構成されました、と言うことはザビエル、ヴァリニャーノと関係が深く、良い関係にあった九州の豊後の大友氏、肥前の大村氏、有馬氏の血縁関係になったとしても当然の事です。さてそのメンバーは正使 2 名、副使 2 名、随員 3 名と引率者 2 名の 9 名の構成にきまりました。

世に言われる天正遣欧使節です、「天正遣欧少年使節」とも言われています。そしてその構成は次のような少年たちでした、

正使：伊東マンショ（1570？ - 1612）12 歳 伊東祐益日向国伊東祐青の子、母は大友宗麟の縁者、大友宗麟の名代。後に司祭に叙され布教を続け長崎のコレジオで亡くなりました。

正使：千々石（チジワ）ミゲル（1570？ - 1632？）12 歳 肥前国領主 千々石直員（チジワナカズ）の子。大村純忠の甥、大村純忠、有馬晴信の名代。帰国後キリスト教を棄教して武士に戻り千々石清衛門を名乗る、結婚して 4 人の男子をもうけたが詳しいことは判っていません。近年ミゲルと妻の墓が長崎県諫早市多良見町で発見されました。享年寛永九年（1632 年）

副使：原マルチノ（1568？ - 1629）14 歳 原 名は不詳、肥前国大村領の領主原中務（ハラナカツカサ）の子、徳川時代に入りマカオに追放されマカオでドラードとともに印刷に従事しました。ドラードと一緒に司祭に叙されました。

副使：中浦ジュリアン（1570？ - 1633）12 歳 肥前国大村領中浦領主 中浦甚五の子、後年司祭に叙せられました、捕縛の目を逃れて二十数年地下で布教を続けましたが、ついに捕らえられ棄教を強要されましたが、屈することなく長崎で穴吊りの刑で殉教しました。65 歳

随員：ジョルジュ・デ・ロヨラ（？ - 1589）修道士 20 歳 日本名は不明、肥前諫早の出身、正使・副使の教育担当。ラテン語、日本文学にも通じ、翻訳

出版に従事しました。帰国の途中マカオで病死しました（結核）。

随員：コンスタンティノ・ドラード（cal1567 - 1620）15 歳 孤児で日本名は不明、日本人女性とポルトガル人の間に生まれた、イエズス会の祭司に育てられました。セミナリオの学生、印刷技術習得のために随員に加えられ又旅行中の記録係として詳細な記録を残しました。徳川時代のキリスト教禁止令で原マルチノと共にマカオに逃れました、その時ポルトガルから持ち帰ったグーテンベルグ印刷機をマカオに持って行き印刷の仕事をして 10 冊の書籍を出版しました、後に司祭に叙されセミナリオの院長を務めました。マカオにて死去、病名は活字鑄造の際に発生する蒸気による鉛中毒でした。

随員：アゴスティニョ 印刷技術習得 本名は不明 有馬（長崎県島原）の出身、ドラードと共にイエズス会の出版活動に従事した日本人ですが詳しいことは不明です、

引率者：アレッサンドロ・ヴァリニャーノ（1539 - 1606）イエズス会司祭、東インド巡察師 イタリア人、1606 年マカオで死去

引率者：メスキータ イエズス会司祭。ポルトガル人ヴァリニャーノがゴアに残ったあとの引率者 1614 年 長崎の浜で死去しました。

1582 年（天正十年一月）に当時まだ開発途上の長崎港を出港してローマのヴァチカンで教皇グレゴリオ十三世に拝謁し大友宗麟、大村純忠、有馬晴信の信書を渡し、その大任を果たしました、少年達は教皇が急逝した為に行われた次の教皇を選出するコンクラーベを目の当たりに見、その他行く先々で大歓迎をうけました。さらに活版印刷の技術を会得する為は何ヶ月も印刷所に通ってその技術を獲得して長崎へ戻って来ました。

21 世紀の今では成田を午前中に離陸すれば乗り継いでもその日のうちにヨーロッパに着き、ゆったりとディナーをとった後、ベッドで眠ることが出来ますが、当時は往きに 2 年 6 ヶ月もかかりました。少年達は 8 年 6 ヶ月も日本を留守にしていました、この八年の年月は少年たちを大きく育て、英知溢れたたくましい青年に育っていま

した。おそらく家族や友人達は少年たちの成長振りに驚き見間違えたことでしょう。

しかし、1590年（天正十八年六月）、ヨーロッパから帰ってきた少年達を待っていたのは大変な現実でした、彼らを送り出した大友宗麟、大村純忠は1587年に他界していました。キリスト教に寛容であった織田信長は使節が出港して半年も経たない六月に明智光秀の反乱により京都の本能寺で自刃し、その跡を羽柴秀吉が継ぎ、1587年には九州も平定し全国統一の実権を握りました。九州から引揚げるときにポルトガルとスペインのキリスト教の教会のいざこごをいいことに、「伴天連追放令」（1587年）を發布しました、20日以内に宣教師は国外に退去せよ、神社仏閣は破壊するな、云々と言う内容です。1588年には長崎を秀吉直轄の領地にしてしまいました、それまで長崎は1580年にイエズス会が大村純忠から寄進を受けたイエズス会の領地で裁判権も行政権もイエズス会が持っていました。

このような状況の九州長崎に帰国したのですから惨めなもので、普通なら凱旋將軍並みの大歓迎で出迎えられるはずだったのが、コソコソと言う状況ではなかったかと思います、使節一行は長崎に着いた後2週間も経たないうちに有馬に移動移しています。

日本人とグーテンベルグ活版印刷機

日本人にヨーロッパの人々と文化にじかに触れてもらい、キリスト教の布教に役立てようとしたザビエルは自分が日本を離れる際に日本人青年マテオとベルナルドの二人を同伴しましたが、マテオは途中のゴアで亡くなり、ベルナルドはポルトガルに入ってコインブラ大学で勉学中に亡くなりザビエル自身も中国で亡くなってしまい思いは達成されませんでした。

ヴァリニャーノはこのことを知っていたので、思い切って若い正使、副使、随員と言う組み立てにし万が一に備えたと思います。正使と副使の年齢は12歳から15歳で、随員は年齢が高くそれでも二十歳前です、随員の任務は正副使節の教育担当（日本語、ラテン語他）と印刷技術の習得を目的としていました。この年齢の頃は身体の発達、知識の吸収が旺盛な時期に当たります、そこでヴァリニャーノは航海の船の中でも、寄港地で風向き待ちの間でも、セミナリオのように教科を組んで国語、外国語（ラテン語）、音楽（楽器演奏も含め）等ガッチリ勉強させました。この努力の成果として使節の態度、演奏、スピーチなどは大きな喝采を受け、行く先々で盛大な歓迎を受けました。彼らの評判はヨーロッパ中の話題となり、絵画、出版物等に記録されましたが、残念ことにこれらの記録文書、絵画のほとんどは日本には存在し

ません、その多くはイエズス会、ヴァチカン、王侯貴族関係のところにあるだけと言っても良いかと思います。

少年たちのヨーロッパでの行動は文化面だけではなく、信長からの贈物を献上したほか、大友、大村、有馬各領主からの信書をローマ皇教に提出しその返書を受け取ったことで外交的な役割も果たしたと思います。その他重要なことを彼らは成し遂げてきました、金属活字による出版技術の習得です、帰国の途中でインドのゴアで日本人として初めての金属活字の活版印刷によって一冊の書籍を出版しました。

タイトルは『ヴァリニャーノ司祭にささげる感謝の演説』でゴアの聖パウロ学院で開かれた盛大な使節歓迎会で原マルチノ自身がラテン語で書いた謝辞を学院の聖職者、学生の前でラテン語により演説をして大喝采を受けました、この演説をドラードが中心となり自分たちの手で活字を組み上げ、印刷し、製本をしました。これが日本人の手で作られた最初の活版印刷による書籍です。

その後マカオ滞在中に『キリスト教弟子の教育』1588年と『遣欧使節対話録』1590年の2冊を出版しました。マカオ滞在中に一行のロヨラは結核の為に亡くなりました。



「ヴァリニャーノ司祭にささげる感謝の演説」

出版者の許可を得て転載

青山教夫著

『もう一人の少年使節ドラード』

（株）昭和堂出版事業部発行 長崎県諫早市 2004年

サマーパーティー 2010

翌日が梅雨明けとなった7月16日(金)に、協会恒例のサマーパーティーが42社、163名の参加を得て国際文化会館で盛大に行われました。事前の「時節柄ノーネクタイで」との呼びかけもあってかラフな姿の参加者が多く、特に女性参加者の夏らしいカラフルな装いが開始前の場内の雰囲気を一層華やいだものにしてくれました。

会はレクリエーション委員の鶴（竜次）さん（東亜ブック）の司会で始まり、まずアロハシャツ姿でマイクを握った山川理事長（ユサコ）から、お集まりをいただいた皆様への感謝と理事会は今後とも協会内の様々な業態の会社間のスパイス的役割を果たして行きたいとの趣旨のご挨拶があり、合わせて協会創立70周年を記念して作られたTシャツが披露されました。そしてこちらもアロハ姿のグレスハム前理事長（UPS）の乾杯のご発声でいよいよ開宴となりました。

国際文化会館でのサマーパーティーの開催は今回が初めてで、アクセスに苦勞をされた方もいらっしゃったようでしたが、会場は素晴らしい日本庭園を望む落

ち着いた部屋で、前回までの高層ビルとはまた違った味があったのではないのでしょうか。生ピアノが奏でられ、料理、飲み物とも豊富に用意されており、ご参加の皆様には十分ご満足いただけたのではないかと思います。スピーチは一切はさまずゆっくりと飲みかつご歓談いただくというスタイルが定着した中で、会場は終始熱気に包まれ、終了時間ギリギリまで談笑の輪が途切れることなく続きました。そして最後に OUP のライリー前社長の締めで盛り上がった会はお開きとなりました。

各社とも厳しい状況の中での毎日で、どうしても内へ内へと向かってしまいがちです。そうした中でこのように業界内の若い人たちからベテランまでが一堂に会して歓談し合う場は貴重だと思います。会場内で「来年は是非浴衣で」などという声も上がっていましたが、浴衣でなくても結構ですので来年も多くの方々のご参加をよろしくお願いいたします。

（友隣社 田中記）



整形外科最新手術手技のエンサイクロペディア

Editor-in-Chief: Sam W. Wiesel

Operative Techniques in Orthopaedic Surgery



4,664 pp. 7,400 illus. 2011
ISBN: 978-0-7817-6370-7
4巻セット 60,522円(税込)

国際的な執筆陣

整形外科の手術手技を図版を多用しながら総合的に解説する四分冊のテキスト／リファレンス。世界各国の主要機関の専門医 600 名以上によって執筆され、手術手技の習得に重点を置きながら、最適な手法の選択方法、合併症回避の方法、及び予想されるアウトカムの完全な理解を促す。

日本からの執筆陣

金沢大学医学部整形外科

村上 英樹 先生

富田 勝郎 先生

奈良県立医科大学整形外科

高倉 義典 先生

田中 康仁 先生

使いやすい構成

手術のステップを術前に素早く見直すのに最適な、使いやすい構成を採用。各手法はステップごとに分解され、それぞれの手技を示す術中のフルカラー写真や線画が加えられている。また、箇条書きの要点や表が多数取り入れられており、必要な情報を素早く容易に参照することができる。

読みやすいフォーマット

各臨床疾患は同じフォーマットで検討され、定義、解剖、身体診察、病因、発展史、身体所見、画像診断と診断学的研究、鑑別診断、非外科的治療、外科的治療、ポイントとピットフォール、術後のケア、アウトカム、及び合併症を取り上げる。また、レジデントのニーズに十分に応えるため、内容は Residency Advisory Board によってレビューされている。

* 価格は変更することがあります



Wolters Kluwer
Health

Lippincott
Williams & Wilkins

* ウォルターズ・クルワー・ヘルス・ジャパン
* TEL: 03-5689-5400 FAX: 03-5689-5402
* e-mail: Toshiya.Murayama@wolterskluwer.com



おかげさまで60年
還暦ユサコの
知恵袋



価値ある知の情報により
知的創造活動をサポート。

あらゆる情報の大海原から真に価値ある情報のみを
知的創造活動のために、いかに効率的に役立てていただけるか。

KNOWLEDGE TRANSFER _____

ユサコは時代の変化を見据え、新たなものにチャレンジするための
知識の移転をサポートします。



ユサコ株式会社

〒106-0044 東京都港区東麻布2丁目17番12号 TEL 03-3505-6161 FAX 03-3505-6281 <http://www.usaco.co.jp/>